

# 大伴小だより

富田林市立大伴小学校 校長 岩片 啓子

富田林市南大伴町一丁目2番20号

7月号

0721-24-3104



## せんび こうぼうせん 線引き攻防戦

息子が3歳頃、よく山中田のサンプラザに行きました。行くとお菓子をはしがるのですが、なかなかひとつに決められません。0歳の妹を抱っこしながら待つ私はしびれを切らし、「はやくひとつに決めて!」と声をかけます。



ようやく選んだと思うと、今度は両手にひとつずつ、二個のお菓子を持ち「え～ら～べ～な～い～」と泣き出すのです。泣き声はどんどん大きくなり、周囲の視線も気になります。それでも私は「ひとつだけ!」と言い続け、息子の前から離れようとする、今度は私の足につかまって「えらべない～、ふたつほしい～」と叫びに似た泣き声をあげます。ここまできたら一見虐待?!と思われるかもしれませんが、私も絶対に譲りません。長い攻防の末、最後は息子がひとつを選び、家に帰るのがいつものパターンでした。

帰宅後にはケロッとしている姿を見て、私の疲労感は何だったのか…、あんなに泣き叫ぶほど究極の選択じゃなかったやん!と言いたくなるほどでした。でも「ここが親子の線引き!」ということを伝えたかったのです。私にとっても子どもにとっても、ひとつだけ買うというルールを守るための『線引き攻防戦』でした。

子どもは、どこまでなら自分の要求が通るのかを試しているように感じることがあります。「あれ買って」「これ買って」「みんな持ってる」「雨やから送って」「今日は学校に行きたくない」などです。子どもの要望は、大人が一度認めると、次も認めてもらえるかも…あれもこれもとエスカレートします。その度に大人の都合で対応を変えると、子どもには基準がわかりにくくなります。特に小学生は、生活のルーティンを整えることが大切なので、帰る場所や方向ひとつでも、大人の都合で急に変更するのは、避けた方がよいことのひとつです。よほどの理由がない限り、当たり前、自分でいつも通り歩いて登下校させなければなりません。なにか困った時にはどうしたらよいか、自分で考えることも大事な経験です。

子どもに何を教えたいのか、自立に向けて必要な力を育てていくことが私たち大人の役割だと思っています。私自身も母親として試行錯誤の毎日でした。ご家庭でも、お子さまの気持ちに寄り添いながら、それぞれのご家庭に合った、成長を促すための線引きを見つけていただけたら嬉しいです。

